

かとうやしき 加藤屋敷遺跡（2次）発掘調査説明会資料

2007年9月21日（金）

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	かとうやしき 加藤屋敷遺跡
遺跡番号	平成17年度登録
所在地	山形県南陽市川樋字加藤屋敷
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道13号上山バイパス改築事業
現地調査	平成19年7月17日～平成19年9月28日
調査面積	1,600㎡
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代・奈良・平安時代・近世
遺構	竪穴住居跡・河川跡・溝跡・墓坑・土坑・柱穴
遺物	縄文土器・石器・須恵器・土師器・陶磁器
調査担当者	調査課長 長橋 至 専門調査研究員 伊藤邦弘 主任調査研究員 氏家信行（調査主任） 調査員 伊藤純子
調査協力	南陽市教育委員会 置賜教育事務所

1 調査（遺跡）の概要

調査は、一般国道13号上山バイパス改築事業（中川工区）に伴う緊急発掘調査として行われました。昨年度に続く第2次調査になります。

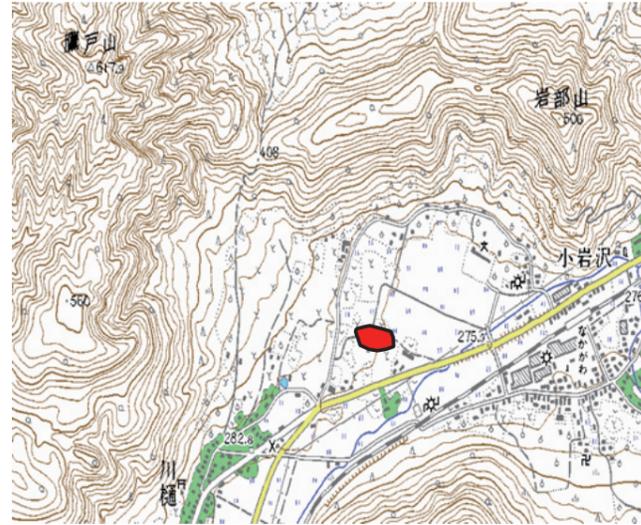
平成17年度に山形県教育委員会による試掘調査が行われ、本遺跡が確認・登録されました。事業区内の遺跡について、記録保存が必要となり、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を行うことになりました。昨年度は、工事用道路を除く4,400㎡について調査を行い、今年度は昨年度の結果を踏まえ工事用道路部分で遺構が密な部分と推測される1,600㎡について調査を実施しました。

調査は、南側をF区、北側をG区とし、重機による表土除去・遺構検出・遺構精査・記録という工程で進めました。

2 立地と環境

遺跡は、JR中川駅から西へ約500m、南陽市北東部の川樋地区に位置しています。鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は282mを測り、地目は、水田・畑地・果樹園などになっています。

周辺には、縄文時代晩期の集落跡と思われる岩谷堂遺跡や、金毛和尚によって江戸時代につくられた岩部山三十三観音の他、遺跡の南側には今年度調査が行われている天矢場遺跡があり、前期の調査では縄文時代の陥穴や中・近世のものと考えられる掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡などの遺構が見つかり、縄文土器や石器のほか中・近世の碗・壺・播鉢などの陶磁器片などの遺物が出土しています。天矢場遺跡は10月から後期調査を開始する予定になっています。



遺跡位置図



F区遺構検出状況【南西から】



G区遺構検出状況【北東から】

3 遺構と遺物

今回の調査では、F区から土坑・墓坑・溝跡の他、縄文時代の竪穴住居跡とも考えられる竪穴状の遺構が、G区からは土坑・溝跡・河川跡などが見つかっています。

土坑は、直径1m前後の大きさで、円や楕円の形に掘り込まれています。中から土器片が多数出土した土坑は、ごみ捨て穴に利用されたと考えられます。この他に、炭や焼けた土の塊が多量に入っている土坑も見つかりましたが、どのように使われていたのかは不明です。

溝跡は、F区で9条、G区で3条が見つかっています。大きさはさまざまです。そのほとんどが調査区を南北に横断します。G区にある3条の溝跡からは、中・近世の陶器や磁器が出土し、これらの遺物から、中・近世に掘られた溝と考えられます。

河川跡は、昨年度の1次調査区から続くもので、幅約2.5m、深さは確認面から約1.5mを測ります。河川跡からは、多数の土器や木製品などの遺物、クルミやトチの実などの自然遺物が出土しました。

墓坑跡は、上部が削られ、深さは約10cm程でしたが、覆土から骨片などが出土しています。何の骨かは今後の分析によりますが、付近から一文銭が出土していることから江戸時代頃の人骨の可能性もあります。

縄文時代の住居跡と考えられる竪穴状の遺構は、直径が約5mで、複数の新しい時代の土坑に掘りこまれています。出土した土器の特徴から、竪穴状遺構は縄文時代後期末に属すると思われます。

その他、柱穴と考えられる遺構も数十個見つっていますが、現在のところ建物を特定するに至っていません。

遺物は、縄文時代の土器や石器、奈良・平安時代の須恵器や土師器、木製品、中・近世の陶器や磁器などが出土しています。

縄文時代の土器はF区から多く出土し、突起が付いているもので、その特徴から縄文時代後期末に属すると考えられます。石器は石鏃、石匙が見つかっています。昨年度の調査でも多くの遺物が出土した河川跡からは、須恵器蓋・壺・甕、土師器壺・甕、木製品柄杓・皿・曲げ物・箸など、奈良・平安時代のものと思われる遺物が今回の調査でも多数出土しています。土坑からも、土師器の破片がまとめて出土し、溝跡からは、中・近世の陶器・磁器の破片などが出土しています。これらの遺物を詳細に検証し、遺構の時期を推測していくことになります。

4 まとめ

今回の発掘調査では、昨年度の調査で見つかった集落跡に続く縄文時代、奈良・平安時代、中・近世の集落の一部が見つかり、加藤屋敷遺跡が複数の時代を含む複合遺跡であることが分かりました。

平安時代の遺構はG区とF区北側に、縄文時代の遺構はF区南側を中心に存在することがうかがえますが、2つの調査区ともに遺構は少なく、集落の中心は昨年度の調査区を含む北西側と見られます。河川跡や多くの溝跡が見つかることから、水を上手に利用し生活していた集落であったと考えられます。

今後、発掘調査で得られた資料を整理して、この地区の歴史的な変遷や景観を考えていきたいと思えます。



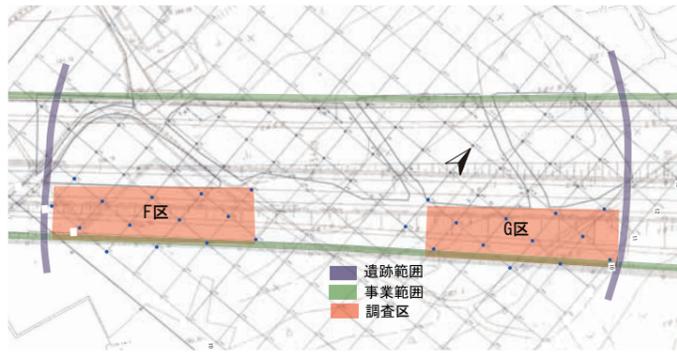
G区遺構精査作業【南西から】



土坑(SK85)の精査作業【東から】



河川跡(SG90)遺物出土状況【東から】



調査区概要図 [S=1:2,000]



住居跡検出状況 [西から]



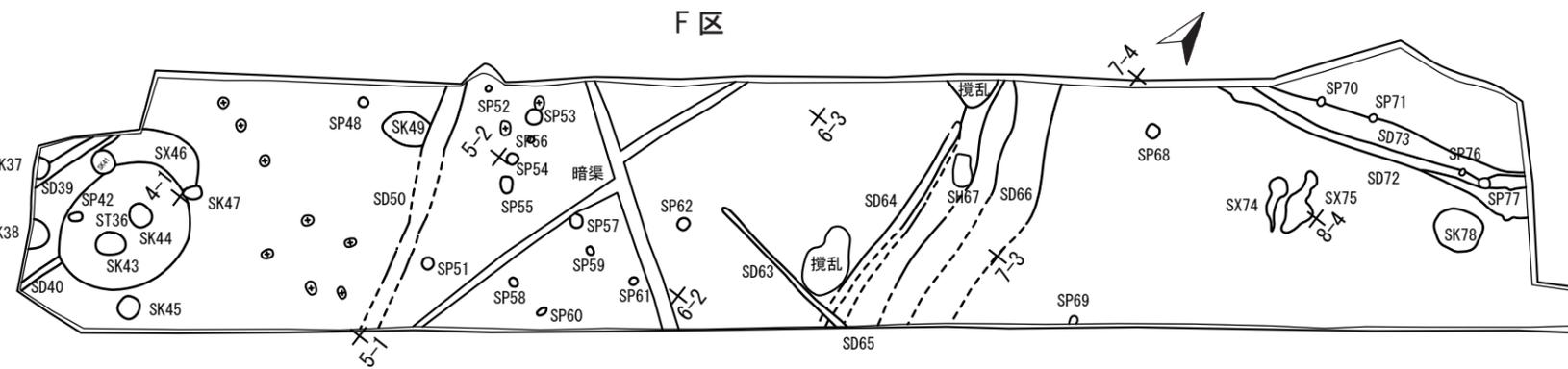
SH 67 墓坑跡 [北東から]



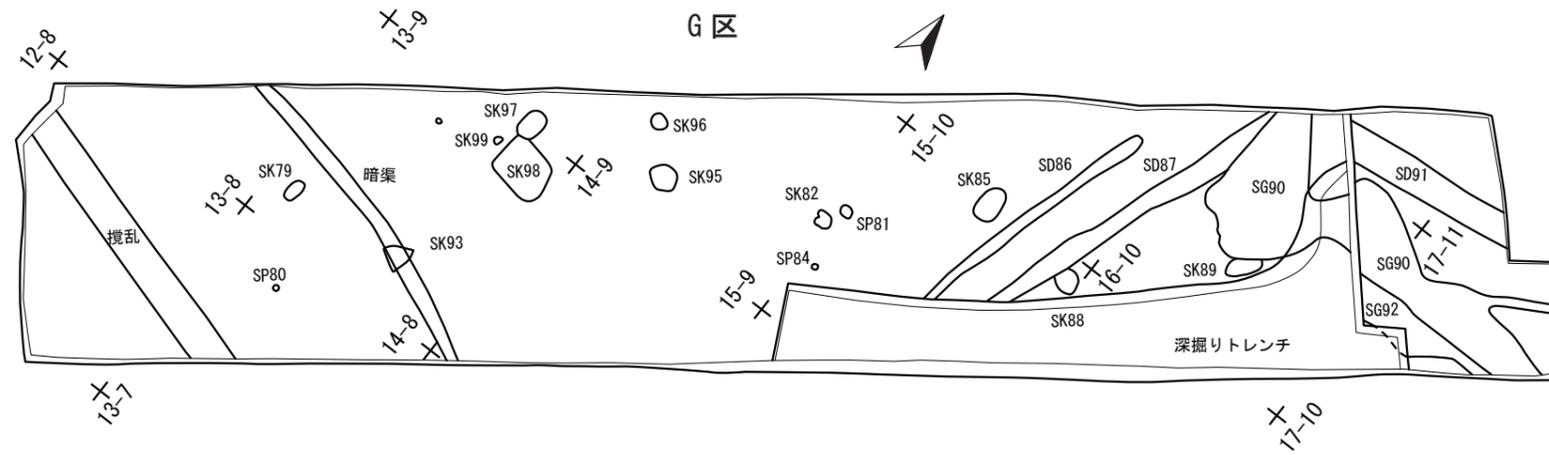
SD 86・87 溝跡 [南から]



SK 82 土坑 [東から]



SK 93 土坑 [東から]



SK 85 土坑 [東から]

加藤屋敷遺跡 (2次) 遺構配置図 [S=1:300]



SG 90 河川跡出土の木製皿



SG 90 河川跡出土の柄杓



SG 90 河川跡出土の曲げ物



SG 90 河川跡から出土した土器 [北から]